

「森のアスレチック (1)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

北軽井沢には「ルオムの森」という、フィールド・アスレチックがあったのだが、現在はアスレチックの営業は休止している。私の山荘には毎夏、たくさんのお客さんが来てくれるが、中にはお子さん連れのご家族も多い。そこで、山荘の裏庭の森に、簡単なアスレチックを造ることにした。



山荘の裏庭は半分草原、半分カラマツの森という環境で、その森の部分に設置することにした。「アスレチック」といっても、ロープや簡単な材料・道具で、自分で設置できる、ごく簡単なものばかりだ。



一つ目は「森の綱渡り」だ。2本のザイルをカラマツの木に渡し、上のロープにつかまり、下のロープを歩くという簡単なものだ。自分が乗っても耐えられる丈夫なものできた。しかし、実際に試してみると、

非常に難しく、逆にとてもスリルがあって面白い。裸足で試しても面白かった。今後、樹皮を守る「ツリー・ウェア」を巻く予定だ。



2つ目は「カラマツの木登り」「木登り」といっても、カラマツの幹に立てかけた、アルミはしごを登るだけだ。このアルミはしごは伸縮可能で、最高 8m まで伸ばせる。

今回は 6m まで伸ばして、先端を樹木に回したザイルで固定した。実際に登ってみると、ものすごい高度感で、なかなか怖い。登り・下りとも「三点確保」の原則を守るようにし、大人が下にいる必要があるだろう。



頂上からはかなりの高度感だ。森を上空から眺めると、野鳥(またはドローン)にでもなった気分で、とても気持ちが良い。